

Challenge
Shift
Go

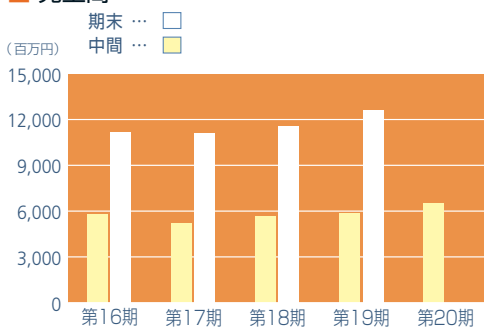
クレスコレポート

第20期中間報告書 2007.4.1 ▶ 2007.9.30

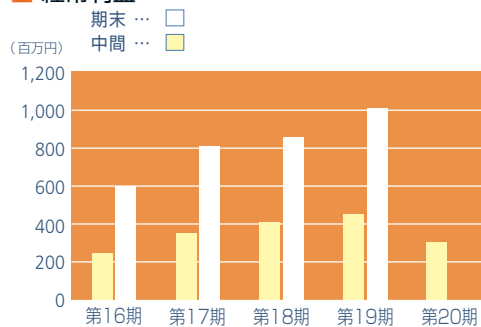
CONTENTS

- 01 連結財務ハイライト
- 02 株主のみなさまへ
- 03 グループの概況・戦略
- 06 トピックス
- 07 中間連結財務諸表
- 09 中間個別財務諸表
- 10 会社情報および株式情報

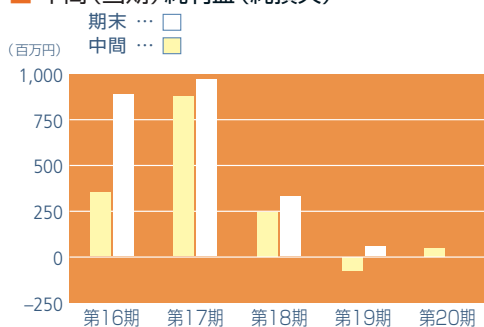
売上高



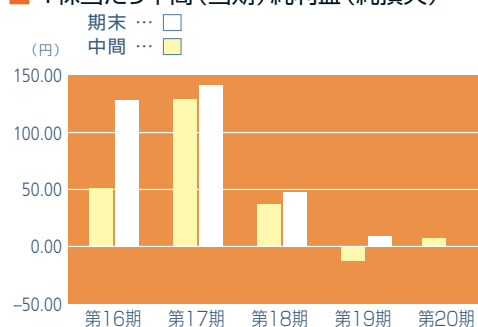
経常利益



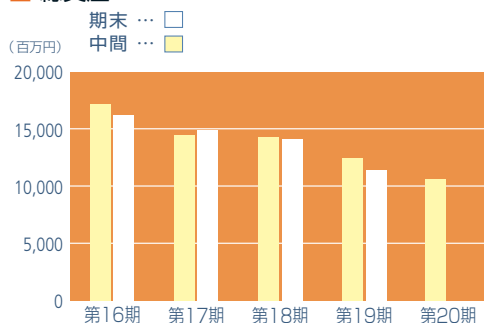
中間(当期)純利益(純損失)



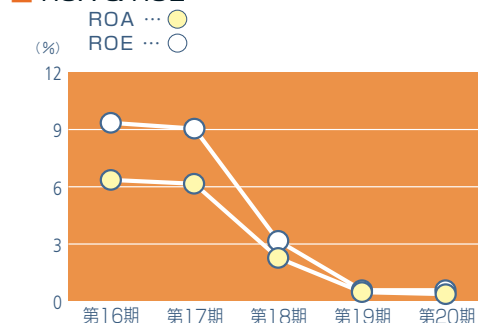
1株当たり中間(当期)純利益(純損失)



総資産



ROA & ROE



(百万円)

	2003 (第16期)	2004 (第17期)	2005 (第18期)	2006 (第19期)	2007(中間) (第20期)
売上高	11,171	11,116	11,527	12,638	6,496
経常利益	603	811	861	1,009	307
当期又は中間純利益	884	966	332	57	45
純資産	10,893	10,375	10,128	8,241	7,614
総資産	16,240	14,890	14,080	11,402	10,603
自己資本比率(%)	67.1	69.7	71.9	72.1	71.6
総資産利益率(ROA)(%)	6.4	6.2	2.3	0.5	0.4
自己資本利益率(ROE)(%)	9.4	9.1	3.2	0.6	0.6

当社の価値を結集した新ソリューションを創造 開発中心の業態からの飛躍

平素は当社業務に格別のご支援ご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社企業グループ2008年3月期中間決算がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、内外経済が引き続き拡大しているものの、世界的な長期金利の上昇の分析に時間が割かれ、実体経済や金融市場への影響を注視すべき状況となっております。

日銀短観をみても景気はわずかな上昇をしておりますが、依然として個人消費の回復は遅れており、企業の設備投資などは減少傾向があり、情報化投資がいつ引き締めにも転じてもおかしくない環境であると認識しております。

この様に、けっして楽観視できない経済環境ではございますが、当中間期の情報サービス業界は引き続き、製造や金融業向けの開発を中心に、堅調な伸びを示しております。特にソフトウェア開発分野では受託ソフトウェアが増加、中でもシステムインテグレーション、ソフトウェアプロダクトが高い伸びを示しております。その他分野ではシステム等管理運営受託、データベースサービスが増加しており、この動きは各企業の内部統制システムの構築、情報セキュリティの強化、リスクマネジメントの見直し、マーケット変化への対応といった経営課題に対する情報投資がまだ衰えていない証と捉えております。

年々高まる顧客、ユーザーからのコスト低減、提案力強化、価格の透明性、生産性の改善などの要求を真摯に捉え、当中間期は主にエンドユーザー市場の開拓、新規ソリューション事業の立ち上げ、経験者の積極採用、マネジメント人材の育成、プロジェクトリスクの早期発見、派遣契約事業の適正運用といった経営課題の克服に努めてまいりました。

以上の結果、当中間期の連結業績は、売上高64億96百万円(前年同期比10.4%増)と10%成長の目標はクリアいたしました。営業利益は202百万円(前年同期比17.8%減)、経常利益は307百万円(前年同期比31.7%減)でありましたが、中間純利益は45百万円(前年同期純損失78百万円)と回復いたしました。

2008年3月期は、クレスコ新体制の黎明期でもあり、中期経営計画の初年度であります。2つの統括部からなるビジネスソリューション事業部はベンダー、エンドユーザー各々に特化し、よりきめ細かいサービスを提供できる体制を、基盤ソリューション事業部はセキュリティ部門を統合し、当社の強みを最大限に活用できる体制を確立し、ここに中期経営計画達成に向けた新たな形ができあがりました。当中間期は数値目標に対し残念な結果でございましたが、新体制の検証ができたこと、新たなビジネスモデルを立ち上げたこと、課題の明確化ができたことは大きな成果であったと捉えております。

当社企業グループは経営改革を推進している途上でございます。今後も互いに切磋琢磨し、企業価値の維持向上に努めてまいります。株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2007年10月



代表取締役会長

岩崎俊雄

代表取締役社長

熊澤修一

中期経営計画の達成に向け全社で邁進 エンドユーザーの開拓も順調

上期は評価損が影響。下期は目標達成が最大の責務

— 上期は目標を達成できませんでした

売上高については、目標をわずかに下回ったとはいえ、前年同期比で10.4%増と、ほぼ堅調に推移したと見て良いと思います。問題は利益面です。営業利益は前年同期を大幅に下回り、目標は達成できませんでした。セキュリティ分野の新規プロジェクトなどに集中的に人員を投入したことが、コストアップ要因となりました。また、経常利益、最終利益については出資先企業の業績悪化による配当金の減少、出資先企業の業績及び財政状態等を評価した結果による投資有価証券の評価損の発生などが響きました。

ただ、決して経営環境が悪いわけでもなく、社員の努力が足りないわけでもありません。4月にスタートした中期経営計画に則った様々な取り組みも、同時に導入した新体制の効果も、着実に結果が現れてきています。下期については、何とせよ計画通りの業績をクリアし、通期では中期経営計画の目標数値に近い水準まで持っていくつもりです。私が今、非常に手応えを感じているのは、離職率の低下です。やはり社員にとって居心地のいい会社、やりがいのある会社へと変わってきているんだ、ということが実感できています。

— プロジェクトのリスク管理は、前期からの反省材料だったのでは？

前期に問題となった案件については、当社が開発を担当した部分の業務は完了しており、これ以上損失が発生することはありません。非常に大規模な案件だったため、責任の所在があいまいなままでプロジェクトを進めてしまった点を深く反省し、その後はすべてのプロジェクトについて計画段階でのレビューを徹底し、責任者の配置や人員の割り当てなどを厳密に管理しています。前期のような大きな失敗は二度と繰り返さないよう肝に銘じています。

しかし、今上期のセキュリティ関係のプロジェクトには、あえて大量の人員を投入いたしました。技術者のスキルを磨くには、開発の最前線で経験を積ませるしかありません。セキュリティ分野は今後当社の大きな柱になる事業と捉えており、より多くの技術者に、このプロジェクトの現場を経験させたかったのです。技術者として開発一筋に歩んできた私は、「今しかない」というときには、思い切って人員と資金を投入すべきであるという信念をもっています。このプロジェクトへの投資は、技術者はもちろん、当社にとっても、非常に大きな財産になったことは間違いありません。

エンドユーザーフォーカスへの歩みは順調

— 中期経営計画の大きな柱として、「エンドユーザーフォーカス」を掲げました

「エンドユーザーフォーカス」というのは、システムのエンドユーザーに徹底的に食い込み、エンドユーザーの本当のニーズを知った上で、最適なソリューションを提供していこうという考え方です。ともすると精神論に陥りがちなフレーズのように思えるかもしれませんが、私はこれを絵に描いた餅にするつもりはありません。4月の組織改編では、エンドユーザー担当の専門部署を新設し、180人近くの人員を投入いたしました。従来もエンドユーザーとのお付き合いはあったのですが、「今こういうことで困っているから、何とかしてほしい」というご依頼を受けての開発案件が多く、目先の問題が解決できればそれでおしまい、というその場その場での断片的な関係になりがちで

した。しかし新体制になってからは、これまでなかなか入ってこなかったエンドユーザーの中長期的な情報システムへのニーズに関する情報が、リアルタイムに入ってくるようになりました。こうした情報がすぐに受注に結びつくわけではありませんが、対話型、提案型の営業ができるようになってきたことが、最大の収穫です。これこそが、当社の目指すソリューション型のビジネスです。下期以降に向けて、かなりの手応えを感じています。

— もう一つの目玉が、「らしさ」の追求です

「クレスコらしさ」とは、他社にはできないことをやることです。具体的な当社の強みとなるのはやはり、ネットワークやシステム基盤における絶対的な技術力、提案力でしょう。顧客のネットワーク構成を分析し、効率化やリスク管理の提案をしていく。「基盤」というのはその名の通り、情報システムの根っここの部分を支える技術ですから、特定業界の浮き沈みに影響されにくい立場でいられることも利点です。たとえば現在は金融業界向けビジネスが好調ですが、たとえ金融が悪くなっても、別の業界でも同じように活躍できる、そんな強さを培っていきたいですね。

繰り返しになりますが、エンドユーザーフォーカスというのも、新たなクレスコらしさです。ベンダー経由のビジネスでは、ベンダーから指示されたものを確実に作り上げることが求められました。しかしエンドユーザーフォーカスの中では、当社がお客様の抱える問題を見つけ出し、その解決策を提供していかねばなりません。こうした試練を通じて、新たなクレスコらしさを見つけていくことも大切です。

— なぜ今、「クレスコらしさ」を強調する必要があるのでしょうか？

それはやはり、創業時に比べて「クレスコらしさ」が失われてきたと感じているからです。どんな会社でも、「これで勝負するんだ」という強い技術があるから創業できるわけで、当社にとってその強みとは、ハードとソフト両方の技術を併せ持つ、基盤システムの技術力でした。その後、おかげさまで事業規模はどんどん大きくなってきたのですが、基盤系の技術者は育成に時間がかかり、なかなか増やすことができない。そのうちに市場のニーズも大きく変化し、基盤システムの上に載せるアプリケーションの仕事が徐々に増え、いつの間にか「基盤に強いクレスコ」という印象が希薄になってしまったのです。

ところが、社内の雰囲気というか文化というのは、創業時からそれほど変わっていません。これは非常に良いことではあるのですが、社内の意識と社外からの見られ方のギャップが徐々に広がっていること、さらには社内がそれに気づいていないことが、非常に危ないと思ったのです。外部の方々には「クレスコらしさ」が見えていないのに、社内は相変わらず「クレスコらしい」と思いこんでいる。このギャップが危ないのです。もう一度、自分たちの技術の強さを再確認しよう、そしてそれを、お客様にきちんと伝えていこうというのが、「クレスコらしさ」という言葉に込めた思いです。





着実に変化を遂げつつある新生クレスコ

——新生クレスコを象徴するような事例は出てきていますか？

先ほど述べたセキュリティ関係のプロジェクトが、好例ですね。セキュリティシステムというのは、お客様の情報リソースの基盤中の基盤です。当社には以前から「SecureDive(セキュアダイブ)*」という優れた製品があったのですが、どんなに優れた製品でも、それ一つでは、お客様のニーズをすべてカバーすることはできません。そこで、このセキュアダイブに、ID管理関連の海外製品を組み合わせ、お客様のニーズや運用実態に合わせて細かい作り込みを行い、日本初の画期的なソリューションを実現したのです。

現場での苦労は相当なもので、人手もコストもかかりました。しかしこのおかげで、この海外製品については、クレスコは日本で一番詳しい会社になることができました。チャレンジングなプロジェクトでしたが「製品に頼らず、製品を活かす」という、当社の目指すべきソリューションの姿も見えてきました。

こうした様々な面で、投資を大幅に上回る果実を得ることができたと確信しています。これはしかも、当社が拡大を狙っているエンドユーザーとの直接取引であり、先に述べた「エンドユーザーフォーカス」の一例でもあるのです。

——グループ間の連携機運も非常に盛り上がっているとか…

もっとも大きく変わりつつあるのは、「DataSpider(データスパイダー)」という製品を抱えるアプレッソとの関係です。この製品は異なるシステムのデータを連携させるものなのですが、今まではパッケージ製品の単体売りがメインでした。ところが最近、クレスコ本体がこの製品を活用したソリューションをお客様に積極的に提案するようになり、成功事例が出始めてきました。また、ERPコンサルティングを手がけるクレスコ・イー・ソリューションからは、当社に対して共同プロジェクトの企画提案が出てくるようになりました。これも今まではなかった変化ですね。

*用語解説

SecureDive :

個人情報や経営情報の保護は、企業にとって最重要課題となっています。そうした社会的なニーズに対応し、最適のソリューションを提供するため、当社が開発した初のオリジナル製品となるログイン認証セキュリティシステムが「Secure Dive(セキュアダイブ)」です。これはPCログイン管理、PCロック機能、シングルサインオン機能などを搭載した端末不正利用防止と柔軟な運用・管理を実現したPCセキュリティツールです。当社では当事業年度から「Secure Dive(セキュアダイブ)」単体での導入では得られない高いセキュリティ環境を実現するソリューションを新ビジネスモデルとしてスタートいたしました。例えば、シングルクライアント製品の組み合わせにより実現できる強固な認証機能などはセキュリティ分野において新たな可能性を拓いていきます。

奇をてらわず、中期経営計画達成へ邁進

——当面の経営課題は、やはり中期経営計画の達成ですか？

上期は目標通りの業績を残すことができませんでしたが、中期経営計画を見直すことは現時点では考えておりません。この中期経営計画は単年度で取り組むものではなく、あくまでも3年後を見据えたものです。株主のみなさまにも是非ご理解いただき、中長期的な視野で我々の取り組みを見守っていただきたいと願っております。もちろん、プロセスを軽んじるわけではなく、計画の進捗状況については定期的にご報告させていただきます。とにかくこの3年間、我々は必死でがんばります。ですから是非、3年後の結果をご覧くださいたいのです。

——株主のみなさまへのメッセージをどうぞ

当社はまじめな会社です。経営についても奇をてらうことなく、「王道」を歩み続けたいと考えております。20年の歴史のある会社ですから、新興IT企業のような急激な変化はできないかもしれませんが、それでも我々は少しずつ、大きく変わっていくことを目指しています。株主のみなさまには今後も変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

中期経営計画

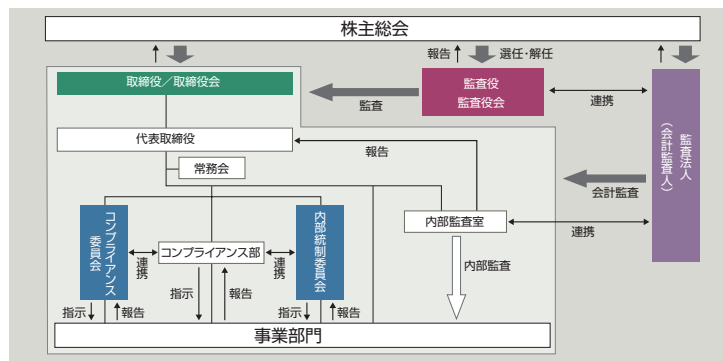
当社は、2007年4月に2009年度までの中期経営計画を策定しました。

「らしさ」の追求 エンドユーザーフォーカス 新規事業の確立

当社が創業から培ってきた「強み」に立ち返り、技術力、人間力、組織力を磨き上げて、創造性と誠実さをもってITを利用したサービスを提供することで、心豊かな社会の実現を目指します。お客様、ビジネスパートナーと共に成長するシナリオを描き、グループの企業価値増大を実現していく、それがクレスコグループの方向性です。計画最終年度となる2010年3月期の連結売上高180億円、経常利益率10%を目指します。

コーポレート・ガバナンス

当社は、株主をはじめとするすべてのステークホルダーにとって企業価値を最大化すること、経営の効率性、透明性を向上させることをコーポレート・ガバナンスの基本方針としております。コーポレート・ガバナンスの目的を実現するためには企業倫理とコンプライアンスを徹底し、内部相互牽制システムの整備・強化及び経営の客観性と迅速な意思決定を確保しなければなりません。今後も効率的で適法な企業体制を作ることを目的とした内部統制システムの構築、改善を進めてまいります。



業績予想の修正に関するお知らせ

2007年4月23日に公表いたしました2008年3月期の連結業績予想及び個別業績予想を2007年9月25日に修正いたしましたのでお知らせいたします。

業績予想の修正理由(連結及び個別)

売上高につきましては、業績予想数値をほぼ達成することができましたが、営業利益につきましては、セキュリティ等の新規ソリューションへの積極的開発やエネルギー関連プロジェクトへの人員増強、組込型ソフトウェア開発のプロジェクトにおけるパートナーの確保難等の影響で、修正を行いました。また、経常利益につきましては、出資先企業の業績悪化により予定した配当金が無配となったこと、当期純利益につきましては、出資先企業の業績及び財政状態等を評価した結果、当該投資有価証券の評価損(1億51百万円)を特別損失に計上することにより修正を行いました。なお、当中間期及び期末の1株当たり配当予想につきましては、前回公表の予想より修正はございません。

【2008年3月期 連結業績予想数値の修正】

■中間期 (2007年4月1日～2007年9月30日)		単位：百万円			
	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	
4月23日予想 (a)	6,600	300	430	210	
9月25日修正 (b)	6,500	170	280	60	
増減額 (b-a)	△ 100	△ 130	△ 150	△ 150	
増減率(%)	△ 1.5	△ 43.3	△ 34.9	△ 71.4	
(ご参考) 2006年中間実績	5,884	246	450	△ 78	
■通期 (2007年4月1日～2008年3月31日)		単位：百万円			
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	
4月23日予想 (a)	14,000	790	1,070	560	
9月25日修正 (b)	13,900	660	910	400	
増減額 (b-a)	△ 100	△ 130	△ 160	△ 160	
増減率(%)	△ 0.7	△ 16.5	△ 15.0	△ 28.6	
(ご参考) 2006年通期実績	12,638	581	1,009	57	

【2008年3月期 個別業績予想数値の修正】

■中間期 (2007年4月1日～2007年9月30日)		単位：百万円			
	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	
4月23日予想 (a)	5,600	210	360	180	
9月25日修正 (b)	5,600	100	230	30	
増減額 (b-a)	0	△ 110	△ 130	△ 150	
増減率(%)	0.0	△ 52.4	△ 36.1	△ 83.3	
(ご参考) 2006年中間実績	5,200	180	378	△ 120	
■通期 (2007年4月1日～2008年3月31日)		単位：百万円			
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	
4月23日予想 (a)	11,800	570	850	450	
9月25日修正 (b)	11,800	460	720	290	
増減額 (b-a)	0	△ 110	△ 130	△ 160	
増減率(%)	0.0	△ 19.3	△ 15.3	△ 35.6	
(ご参考) 2006年通期実績	10,975	401	815	△ 55	

(単位：百万円未満切捨)

	2004 2004年9月30日現在	2005 2005年9月30日現在	2006 2006年9月30日現在	2007 2007年9月30日現在
中間連結貸借対照表				
(資産の部)				
流動資産	6,277	5,415	4,932	5,131
現金及び預金	3,353	2,018	1,297	2,063
受取手形及び売掛金	2,222	2,556	2,573	2,318
有価証券	30	237	317	45
たな卸資産	262	195	121	144
その他	416	406	621	559
貸倒引当金	△ 7	-	-	-
固定資産	8,179	8,833	7,534	5,472
有形固定資産	1,764	1,788	1,765	1,744
建物	701	741	746	737
工具器具備品	146	130	102	90
土地	916	916	916	916
無形固定資産	739	646	518	363
投資その他の資産	5,675	6,398	5,250	3,364
投資有価証券	5,075	5,767	4,572	2,229
敷金保証金	253	260	270	334
その他	390	415	444	835
貸倒引当金	△ 45	△ 45	△ 37	△ 34
資産合計	14,457	14,249	12,466	10,603
(負債の部)				
流動負債	2,111	1,886	2,008	2,039
買掛金	827	901	921	916
一年内返済予定の長期借入金	-	30	30	30
一年内償還予定の社債	40	40	40	180
未払法人税等	540	178	175	45
未払事業所税	6	6	8	6
未払消費税等	27	63	67	63
賞与引当金	402	357	371	392
その他	266	307	394	404
固定負債	1,981	2,241	1,579	949
社債	120	230	190	10
長期借入金	-	97	67	37
退職給付引当金	390	465	520	621
役員退職慰労引当金	134	144	155	116
預り保証金	161	169	175	156
繰延税金負債	1,174	1,134	470	7
負債合計	4,092	4,127	3,588	2,988
(少数株主持分)				
少数株主持分	4	6	-	-
(資本の部)				
資本金	2,514	2,514	-	-
資本剰余金	2,998	2,998	-	-
利益剰余金	3,418	3,549	-	-
その他有価証券評価差額金	2,138	2,107	-	-
自己株式	△ 709	△ 1,056	-	-
資本合計	10,360	10,115	-	-
負債、少数株主持分及び資本合計	14,457	14,249	-	-
(純資産の部)				
株主資本	-	-	7,638	7,566
資本金	-	-	2,514	2,514
資本剰余金	-	-	2,998	2,998
利益剰余金	-	-	3,343	3,334
自己株式	-	-	△ 1,219	△ 1,282
評価・換算差額等	-	-	1,219	24
その他有価証券評価差額金	-	-	1,219	24
繰延ヘッジ損益	-	-	-	0
少数株主持分	-	-	21	23
純資産合計	-	-	8,878	7,614
負債純資産合計	-	-	12,466	10,603

中間連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円未満切捨)

科 目	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
2007年3月31日残高	2,514	2,998	3,396	△ 1,282	7,628	590	-	590	22	8,241
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△ 107		△ 107					△ 107
中間純利益			45		45					45
自己株式の取得				0	0					0
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)					-	△ 566	0	△ 566	1	△ 564
中間連結会計期間中の変動額合計	-	-	△ 61	0	△ 61	△ 566	0	△ 566	1	△ 626
2007年9月30日残高	2,514	2,998	3,334	△ 1,282	7,566	24	0	24	23	7,614

(単位：百万円未満切捨)

	2004 2004年4月1日から 2004年9月30日まで	2005 2005年4月1日から 2005年9月30日まで	2006 2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2007 2007年4月1日から 2007年9月30日まで
中間連結損益計算書				
売上高	5,197	5,656	5,884	6,496
売上原価	4,419	4,837	4,988	5,651
売上総利益	777	819	895	844
販売費及び一般管理費	542	562	649	642
営業利益	235	256	246	202
営業外収益	167	216	262	166
受取利息	8	15	37	11
受取配当金	40	59	49	4
有価証券売却益	15	28	53	39
不動産賃貸収入	99	100	103	102
その他	4	13	18	8
営業外費用	51	63	57	60
支払利息	0	1	0	1
不動産賃貸費用	47	50	50	47
その他	3	11	5	11
経常利益	352	409	450	307
特別利益	1,344	10	5	24
投資有価証券売却益	1,339	2	2	22
その他	4	8	2	1
特別損失	234	22	591	232
過年度プロジェクト関連損失	-	-	-	*1 12
固定資産除却損	67	4	1	11
投資有価証券評価損	33	-	115	151
事務所移転費用	66	17	-	-
その他	66	1	*2 474	58
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	1,462	397	△ 135	98
法人税、住民税及び事業税	530	167	175	28
法人税等調整額	58	△ 13	△ 232	24
少数株主利益	0	0	0	0
中間純利益又は中間純損失(△)	872	242	△ 78	45
中間連結キャッシュ・フロー計算書				
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 588	117	110	610
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,021	△ 660	△ 324	△ 466
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 140	△ 125	△ 313	△ 145
現金及び現金同等物の増減額	292	△ 668	△ 527	△ 2
現金及び現金同等物の期首残高	3,069	2,686	1,825	2,066
連結子会社の持分法適用関連会社への異動等に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 8	-	-	-
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,353	2,018	1,297	2,063

*1 特別損失 過年度プロジェクト関連損失について

12百万円は、エネルギー関連向けのプロジェクトの過年度に係る損失を受け、特別損失として計上いたしましたものです。

*2 特別損失 その他について

474百万円の内468百万円は、飲料メーカー様向けのプロジェクトにおいて発生した多額の損失を受け、特別損失として計上いたしましたものです。

(単位：百万円未満切捨)

	2004 2004年9月30日現在	2005 2005年9月30日現在	2006 2006年9月30日現在	2007 2007年9月30日現在
中間貸借対照表				
(資産の部)				
流動資産	6,612	4,942	4,233	4,338
固定資産	8,131	9,041	7,942	5,875
資産合計	14,744	13,983	12,176	10,213
(負債の部)				
流動負債	2,424	1,738	1,828	1,669
固定負債	1,981	1,979	1,351	904
負債合計	4,405	3,717	3,179	2,574
(資本の部)				
資本金	2,514	2,514	-	-
資本剰余金	2,998	2,998	-	-
利益剰余金	3,397	3,700	-	-
その他有価証券評価差額金	2,138	2,107	-	-
自己株式	△ 709	△ 1,056	-	-
資本合計	10,338	10,266	-	-
負債・資本合計	14,744	13,983	-	-
(純資産の部)				
株主資本	-	-	7,777	7,615
資本金	-	-	2,514	2,514
資本剰余金	-	-	2,998	2,998
利益剰余金	-	-	3,482	3,384
自己株式	-	-	△ 1,219	△ 1,282
評価・換算差額等	-	-	1,219	24
その他有価証券評価差額金	-	-	1,219	24
純資産合計	-	-	8,996	7,639
負債純資産合計	-	-	12,176	10,213

(単位：百万円未満切捨)

	2004 2004年4月1日から 2004年9月30日まで	2005 2005年4月1日から 2005年9月30日まで	2006 2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2007 2007年4月1日から 2007年9月30日まで
中間損益計算書				
売上高	4,694	4,982	5,200	5,617
売上原価	4,034	4,280	4,514	4,999
売上総利益	659	701	685	618
販売費及び一般管理費	450	478	504	499
営業利益	209	223	180	119
営業外収益	199	215	253	193
営業外費用	55	58	55	59
経常利益	353	380	378	253
特別利益	1,340	9	2	22
特別損失	234	22	589	232
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	1,459	366	△ 207	42
法人税、住民税及び事業税	530	166	169	5
法人税等調整額	47	△ 27	△ 256	9
中間純利益又は中間純損失(△)	882	227	△ 120	26
前期繰越利益	76	110	-	-
自己株式処分差損	0	2	-	-
中間未処分利益	958	335	-	-

中間株主資本等変動計算書

(単位：百万円未満切捨)

科 目	株主資本 利益剰余金							自己株式		評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益準備金	プログラム等準備金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	2,514	2,998	78	41	1	3,360	△17	△1,282	7,696	590	590	8,286
中間会計期間中の変動額												
剰余金の配当							△107		△107			△107
中間純利益							26		26			26
自己株式の取得								0	0			0
プログラム等準備金の取崩				△7			7		-			-
特別償却準備金の取崩					0		0		-			-
別途積立金の積立						△250	250		-			-
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)										△566	△566	△566
中間会計期間中の変動額合計	-	-	-	△7	0	△250	178	0	△80	△566	△566	△647
2007年9月30日残高	2,514	2,998	78	33	0	3,110	161	△1,282	7,615	24	24	7,639

■ 会社の概要 (2007年10月1日現在)

商号 株式会社クレスコ
 設立 1988年4月1日
 資本金 2,514百万円
 従業員数 826名
 本社所在地 〒108-6026 東京都港区港南二丁目15番1号
 (品川インターシティA棟26F) (03)5769-8011

事業所 ■ 高輪センター
 〒108-0074 東京都港区高輪三丁目13番1号
 (高輪コート5F) (03)5423-6210

■ 横浜センター
 〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目3番4号
 (クレシェンドビル5F) (045)474-0982

■ 北海道開発センター
 〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西五丁目1番地1
 (札幌口プロビル4F) (011)200-5550

事業内容 ■ 情報処理システムの設計及びコンサルテーション
 ■ システム機器、通信機器の開発・製造及び販売
 ■ コンピュータ用ソフトウェアの開発・製造及び販売
 ■ マイクロコンピュータシステムの開発・製造及び販売

■ 役員 (2007年10月1日現在)

代表取締役会長	岩崎俊雄
代表取締役社長	熊澤修一
専務取締役	吉田俊博
常務取締役	丹羽蔵王
取締役	山田則夫
取締役	根元浩幸
取締役	木村孝之
取締役	谷口義恵
常勤監査役	波多腰茂
監査役	臼井義真
監査役	井手正介
監査役	小林樹明

(注)監査役臼井義真、監査役井手正介及び監査役小林樹明は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 連結子会社 (2007年10月1日現在)

連結子会社 クレスコ・イー・ソリューション株式会社
 ワイヤレステクノロジー株式会社
 株式会社クレスコ・コミュニケーションズ

■ 株式の状況 (2007年9月30日現在)

発行可能株式総数	17,000,000株
発行済株式の総数	6,312,940株 (自己株式995,114株を除く)
株主数	4,152名

■ 所有者別株式分布状況(自社保有分を除く)(2007年9月30日現在)

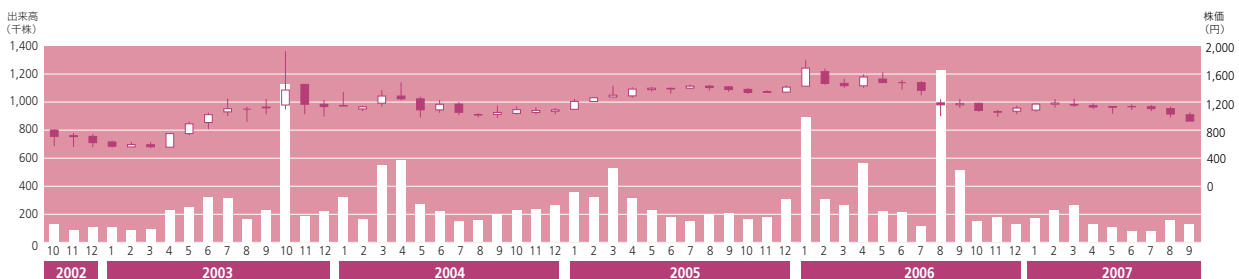
内訳	株式数(6,312,940株)	株主数(4,151名)
個人その他	4,709,981株 (74.6%)	4,027名 (97.0%)
金融機関(銀行)	60,500株	1名
(信託銀行)	407,920株	24名
(生命保険会社)	105,720株	6名
(その他金融機関)	10,600株	2名
(計)	584,740株 (9.3%)	33名 (0.8%)
証券会社	34,536株 (0.6%)	23名 (0.6%)
外国法人その他	185,725株 (2.9%)	34名 (0.8%)
事業会社その他	797,958株 (12.6%)	34名 (0.8%)

■ 大株主 (2007年9月30日現在)

株主名	持株数(百株)	議決権比率(%)
岩崎俊雄	10,465	16.58
浦崎雅博	7,409	11.74
有限会社シュンコーポレーション	5,966	9.45
佐藤和弘	2,911	4.61
田島健司	2,224	3.52
クレスコ従業員持株会	2,189	3.47
イー・アンド・アイシステム株式会社	1,781	2.82
山川茂	1,466	2.32
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,277	2.02
シービーエヌアイエフインターナショナルキャピタルパートナーズ	1,055	1.67

(注)当社の自己株式(9,951百株)は議決権がないため、上記の表には含めておりません。

■ 株価および出来高の推移



株主メモ

決算期 3月31日

定時株主総会 6月

利益配当金支払基準日 3月31日

中間配当金支払基準日 9月30日

同総会議決権行使基準日 3月31日

その他必要のあるときは、あらかじめ公告します。

公告掲載新聞 日本経済新聞

「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第16条第5項の定めに基づき、貸借対照表及び損益計算書を同条第2項の公告に代えて当社ホームページ（<http://www.cresco.co.jp>）にて開示、掲載しております。
なお、当社は有価証券報告書提出会社であるため、2006年5月より会社法第440条第4項の規定に基づき第19期以降の決算公告は掲載しておりません。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

郵便物送付先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

電話お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711（フリーダイヤル）

■ 単元未満株式の買取請求及び売渡請求

単元未満株式の買取請求及び売渡請求は、上記事務取扱場所及び上記取次所にて受付けております。

ただし、株券保管振替制度をご利用されている場合は、お取引の証券会社にお申し出ください。

また、売渡請求は毎年3月31日から起算して12営業日前から3月31日までの間、及び9月30日から起算して12営業日前から9月30日までの間お取扱いができませんので、ご注意ください。

■ お知らせ

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求、単元未満株式売渡請求に必要な各用紙及び株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル（自動音声応答サービス）0120-244-479でも24時間承っておりますので、ご利用ください。

クレスコ憲章

- 一. クレスコは人間中心、実力本位の会社である
- 一. クレスコは自由、若さ、夢を持つ会社である
- 一. クレスコは最高の技術を発揮する会社である
- 一. クレスコは皆が経営する会社である
- 一. クレスコは世界で生きる会社である

「5つのモットー」を創業以来、会社の指針としています。改革に着手したとき、判断に迷いが生じたとき、危機に直面したとき・・・私たちが基本に立ち返る原点となっています。自由闊達な社風のもと、社員一人ひとりが使命を果たすべく、持てる能力を最大限に発揮し、自ら考え、行動し、共に社業に貢献するように定めたものです。